

# 1. 評価結果概要表

作成日 2007年6月21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1292100037
法人名	有限会社 ウェルフェア
事業所名	グループホーム 谷津苑
所在地	千葉県習志野市秋津5-5-6 (電話) 047-451-6886

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5F		
訪問調査日	平成19年6月21日	評価確定日	7月20日

【情報提供票より】(19年6月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤7人(兼務1人), 非常勤2人, 常勤換算4.2人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	73,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有 300,000円	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	700 円
	夕食	550 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	名				
年齢	平均 86.7 歳	最低	75 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	津田沼中央総合病院、谷津パーク診療所、小林歯科医院
---------	---------------------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

谷津干潟公園に程近い、閑静な住宅街の中にあるホームである。周囲は静かで景観がよく、たいへん恵まれた環境に位置している。同法人では、この地域で認知症介護に窮する人がでないようにとの思いから、周辺2ヶ所で、グループホーム秋津とデイサービスセンター秋津も運営している。また、認知症の人と家族への応援者として、認知症サポーターの活動も行っている。地域において、認知症介護の拠り所となっている、頼もしいホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では改善すべき特記事項は無かった。同ホームでは、より一層地域に密着すべく、運営推進会議の開催、認知症サポーター活動、認知症を支援する専門職千葉連絡会の立ち上げに携わるなど、活動の幅を広げている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者だけでなく現場の職員も参加し、改善案の検討や実践につながる努力をしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議で話し合ったことは主として、出席者同士の自己紹介、ホームの現状報告等である。今後は、認知症高齢者の介護についてより地域の方々に理解してもらうため、呼びかけを行っていく予定である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	写真や近況を添えた便りを入居者個別に作成しており、家族に送っている。またサービス提供内容や平均バイタルなども併記している。家族の面会時には職員が積極的に声かけし、意見・要望をくみ取るよう努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会や町内会の行事に参加したり、小学校の運動会の見学などを通じて、地域との交流を図っている。

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域でその人らしく生活できるよう支援することを理念とし、ケアに取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、誰もが見やすいよう玄関に掲示され、職員ミーティングや申し送りの際に、話し合うようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の行事や小学校の運動会に参加している。今後は、自治会や学校において、認知症に関する知識の啓発活動を広げていくことを検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価も外部評価もサービスの質向上に必要であると認識しており、評価後は結果を検証し、改善に努めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの役割や取り組みを理解していただくと共に、認知症高齢者介護について、啓発・広報を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の「介護サービス向上会議」や地域包括支援センターの「地域会議」に参加し、連携を深めると共に、サービスの質向上を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、入居者の写真や近況、体調などを記載した便りを華族に送っている。必要があれば電話等ですぐに連絡を取る。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面談を実施し、意見・要望を聴取している。面会時には、職員が積極的に声かけし、意見交換するように努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を大切にすることは理念の中にも謳われている。職員の異動の際は、引継ぎを1ヶ月ほどかけて入念に行い、入居者へダメージを及ぼさないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は管理者や職員の知識、力量を把握して研修計画を立て、専門的なケアに関する内部研修を適宜行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症を支援する専門職千葉連絡会を立ち上げ、会員、実行委員として同業者との交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>同法人のデイサービス利用から始めてホームに入居してもらったり、見学や体験入居などを経て徐々に馴染んでもらうよう配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>理念として「私たちは利用者の方と共に、励ましあい共に助けあい、共に泣き共に笑う家族です…」を掲げ、「できる、できた」の充実感や自信を取り戻せるよう「一緒に・楽しく・ゆっくり」共に過ごし支えあっている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式アセスメントを基にケアプランを作成している。日常生活の中から顕在化した新たなニーズを、職員間で共有する仕組みがあり、ミーティングでもディスカッションしている。入居者や家族の「思い」を重んじている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式アセスメントを基に、入居者、ご家族、医療関係者等の意見を反映させたケアプランが作成されている。しかしながら記録物の種類や量が多く、やや見づらい状況である。</p>		<p>モニタリングの内容や結果を、職員がより一層見やすくするための、記録の工夫が求められる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは期間に応じて計画的に実施されている。短期目標は達成しやすいものに設定され、次のステップにつながるよう工夫されている。入居者に状態の変化があった時は、随時見直しを行う。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の急な宿泊やそれに伴う食事等には対応できるようになっている。型にはまらない、柔軟な支援を心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携の谷津パーク診療所の内科医師が、2週間に1度、訪問診療に訪れている。また、入居者・家族の意向にそって、それ以外の病院にかかることも可能である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する家族の意向は事前に確認し、できるだけ意向に沿えるよう、医療機関とも連携をとっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員教育が徹底されており、入居者のプライバシーが保護されている。個人情報管理の責任者が決められており、職員は誓約書を書いて個人情報保護に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己選択、自己決定は重要事項として認識している。意思の表出が困難な入居者に対しては、職員が食事、おやつ、飲み物、入浴、外出等、日常のあらゆる場面で選択肢を提案し、希望にそった支援を心掛けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者とともに、調理、食事、後片付けを行っている。大皿に盛られた料理を皆で取り分けたり、食後にゆったりした時間を設けるなど、食事を楽しむ様々な工夫を取り入れている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜の職員が少ない時間帯を除き、なるべく入居者の希望にあわせた入浴を支援している。入浴剤を使ったり、近くの銭湯に行くなど、楽しみも用意している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯、料理の配膳、下膳や畑仕事等、入居者一人ひとりが得意分野を発揮し、役割や楽しみごとを持てるようにしている。社会福祉協議会が開催している踊り、囲碁、手芸等への参加を検討している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	余暇支援は、入居者個別とホーム全体とにわけて検討、計画、実施されている。散歩や買い物は日常的に行われている。また、入居者の旅行やお墓参り、冠婚葬祭への出席等には、職員が勤務時間外に付き添ったりしている。		外出支援の一部が、職員のボランティア精神によって行われているため、工夫が促される。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠していない。入居者が一人で外へいってしまわないよう、職員が常に見守りを心がけている。夜間のみ、事故防止のため階段に簡易な鍵をつけている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難経路はホーム内の随所に誘導の掲示がされている。消防署の協力のもと消防訓練を年2回実施し、入居者も出来る限りの参加を促している。家具等は緩衝材を使用し、転倒防止策を講じている。近隣との協力体制は今後の課題である。		町内会には消防訓練の企画がないため、5丁目自治会にホームが実施を要請しているところである。住宅街の一角に位置しているため、自治会や地域住民参加型の消防訓練の実現が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食べる量や栄養バランス、水分摂取量の目安は主治医と相談のうえ、入居者個々へ提供している。食事、水分摂取量は必要に応じて記録し、時には栄養補助食品を利用することもある。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関やリビングには花や鉢植え、季節感を感じさせるような装飾物が飾られている。吹き抜けや換気により自然な風を感じ、居心地よく過ごせるよう配慮されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者が馴染みの家具や仏壇などを持ち込み、居室が安心できる空間となるよう支援している。</p>		